

マナーを守って楽しく自然観察!

ごみをすてたり、自然をよごしたり
しないように注意しよう

川や山に行くときは大人の人といっしょに行こう

観察するために生き物を持って帰るときは
たくさんとりすぎないようにしよう



編集・発行

国土交通省九州地方整備局
筑後川ダム統合管理事務所
久留米市高野1-2-2
TEL0942-39-6651
松原ダム管理支所
大分県日田市大山町西大山8492-2
TEL0973-52-3121(代)
下笠ダム管理支所
熊本県阿蘇郡小国町大字黒瀬5827-3
TEL0973-54-3120(代)

自然観察ハンドブック

松原ダム・下笠ダムの 自然観察ハンドブック



松原ダム



下笠ダム



ぼくはナビゲーターの
トーカー次郎くんです。
ボクと一緒に
自然を見に行こう!

ダムは水の貯金箱

ダムは水をためることで、洪水を防いだり、水不足を解消する役割をもっているんだ。安全で安心なみんなの暮らしを守っているんだよ。



たくさんの水をたたえる松原ダム

放水中の下笠ダム

ダムのしごと

洪水調節

大雨もガッチリと受け止めて必要な分だけ川に水を流すことを洪水調節といいます。

河川維持

川の水量が減ったときにためていた水を流すことでかわをが枯れないようにします。これを河川維持といいます。

水道用水

くらしに必要な水を貯えて飲み水などの水道用水や工業用水として使われます。

水力発電

ダムの貯水池から水が流れるエネルギーを利用して水力発電を行っています。

もくじ

- **ダムは水の貯金箱** ダムはみずのちょきんばこ 02
- **松原ダムと下笠ダムの位置** まつばらダムとしもうけダムのいち 03
- **松原ダムと下笠ダムとはどんなダム?** まつばらダムとしもうけダムとはどんなダム? 05
- **自然を知ろう! しぜんをしろう!** 07
- **松原・下笠ダムの自然** まつばら・しもうけダムのしぜん 09
- **自然観察に出かけよう! しぜんかんさつにでかけよう!** 11
- **魚類** ぎょるい 13
- **鳥類** ちょうるい 16
- **昆虫類** こんちゅうるい 20
- **両生類・は虫類** りょうせいるい・はちゅうるい 24
- **ほ乳類** ほにゅうるい 27
- **植物** しょくぶつ 29
- **トピックス** トピックス 33

松原ダムと下笠ダムの位置

松原ダムと下笠ダムは筑後川の上流にあります。
 筑後川は阿蘇外輪山の源流から有明海に流れる全長およそ143kmの九州一の長い川です。

熊本、大分、福岡、佐賀と4つの県を流れる

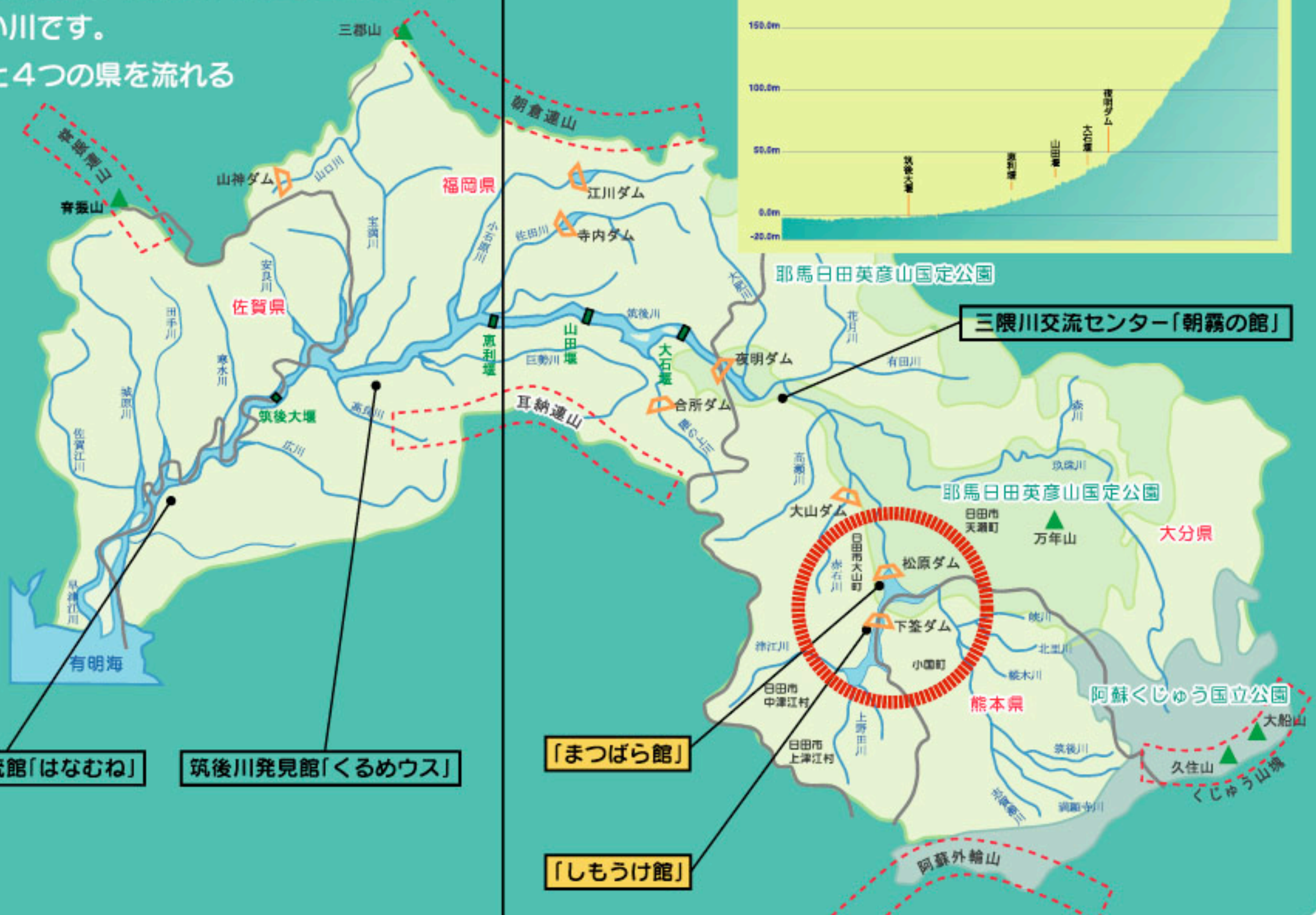
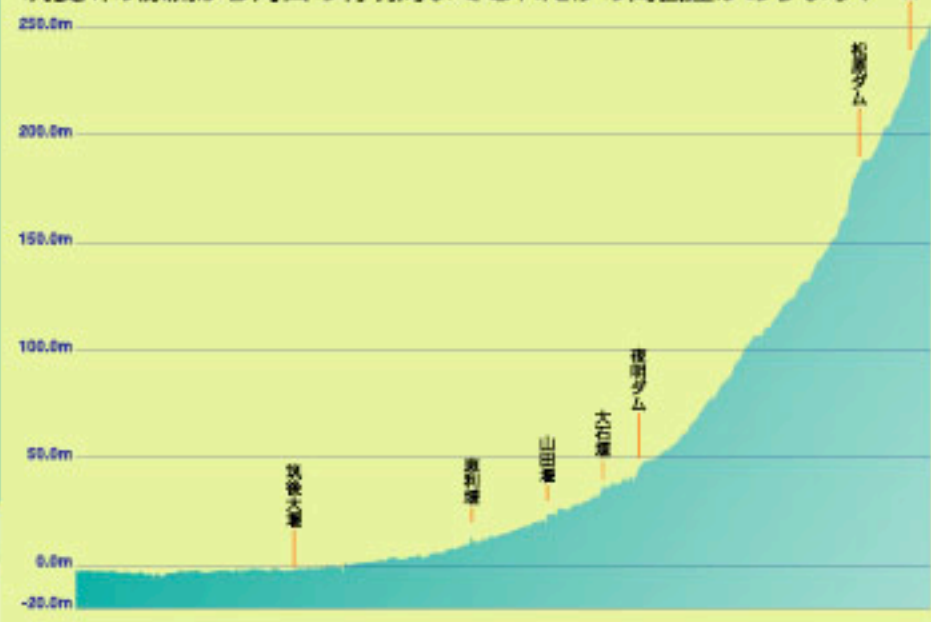
筑後川は、わたしたちの生活を支え、文化を育み、美しい景観をもたらしました。しかし一方で、洪水が起きると大変な被害をもたらした危険な川でもあります。松原ダムと下笠ダムは、そんな筑後川の上流で、私たちの安全な暮らしを守っているのです。

筑後川交流館「はなむね」

筑後川発見館「くるめウス」

筑後川の高低差

筑後川の源流から河口の有明海までこれだけの高低差があります。



松原ダムと下笠ダムとはどんなダム？

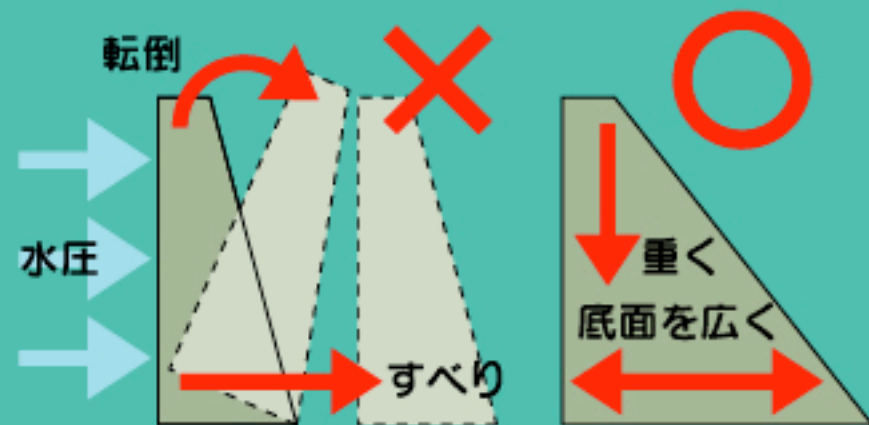
わたしたちの暮らしを守る松原ダムと下笠ダムとはどんなダムなのでしょう？



松原ダム

- 種類 — 重力式
コンクリートダム
- ダムの高さ — 約83m
- ダムの長さ — 約192m
- 貯水量 — 5460万m³
(福岡ドームの容積の約31倍)

ダムに水をためると、ダムを押し倒そうとする力が働き、ダムが倒れてしまいます。そこでダム自体を重くしたり、ダムの底を広くしたりしています。コンクリートでこのように作ったダムを重力式コンクリートダムとよんでいます。



もしもダムがなかったら？

もしもダムがなかったら、川の上流にふった雨による大量の水をくい止めることができません。さらに山からくずれ落ちた土砂や強い風で倒れた木（風倒木）が、ものすごい勢いで下流に流れてしまい、川の下流では大きな水害が起きてしまいます。ダムが川に流れる水を調節して、キケンな風倒木を受け止めることで、安全な生活を守っているのです。



台風でたおれて川に流れてきたキケンな木をダムがくい止めました。



昭和28年、ダムがなかったところ大雨で流された久留米市の小森野橋

ダムの情報館に行ってみよう！



まつばら館
松原ダムを詳しく紹介しています



しもうけ館
下笠ダムと蜂の巣闘争を詳しく説明しています

ダム建設の反対運動 蜂の巣闘争

下笠ダムの建設当初、周辺の人たちはダム建設に反対して運動が巻き起こりました。ダム予定地の斜面に蜂の巣のような小屋を建てたことから「蜂の巣闘争」と呼ばれていました。しもうけ館では当時の貴重な資料を見ることができます。

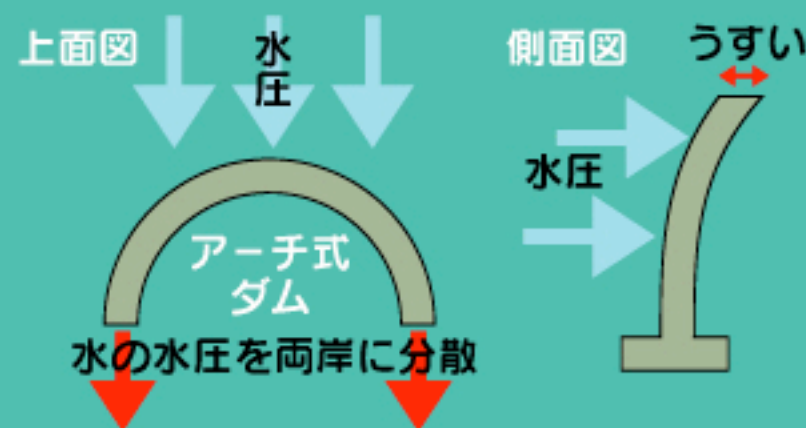


下笠ダム

- 種類 — アーチ式
コンクリートダム
- ダムの高さ — 約98m
- ダムの長さ — 約248m
- 貯水量 — 5930万m³
(福岡ドームの容積の約34倍)



ダムの上流側に丸みをもたせたコンクリートダムをアーチ式ダムといいます。これはダムの丸みによって水の力を両岸に伝えるため、重力式ダムのようにダム自体を重く厚くつくらなくてすみます。しかし水の力を支える両岸がかたい岩で出来ているところでないといけません。



松原ダムと下笠ダムはたのもしい兄弟ダム

松原ダムと下笠ダムは2つで協力して、たくさんの水をガッチリと受けとめ、水害を防いでいます。2つのダムは兄弟ダムと呼ばれているんだよ。

自然を知ろう

ぼくたちが住むまわりには
川が流れ、花がさき、小鳥が鳴いている
そんな豊かな自然があります。
その豊かな自然の中には、動物や鳥、
魚などいろいろな生き物が
生活しているんだよ。
どんな生き物がいるか
見にいってみたいかないかい？



松原ダムと下笠ダムのまわりは豊かな自然に
めぐまれた絶好の自然観察ポイントです。
この自然観察ハンドブックをもって
生き物や植物を探しに行こうよ
いろいろな発見がまっているよ。

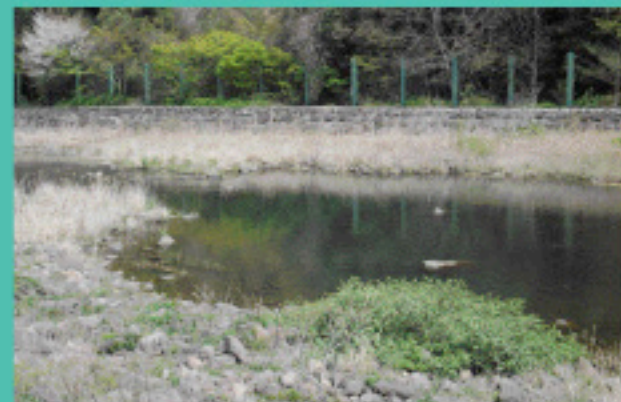


観察に行こうよ！

生きものたちの すみかってどんなトコ？

ふち(淵)

川の中でも深くて流れがゆるやかな
ところ。魚の休憩やひなん場所です。
小さな滝の下や川の曲がり角、大き
な石や岩のまわりにあります。



森や林

針葉樹や広葉樹が茂っています。林は
鳥のねぐらになり、木の枝や葉には鳥
の餌になる昆虫たちも集まります。ま
たテンなど森を好む動物がすんでいます。



草地や田畑

田んぼや畑では、昆虫たちが産卵や
生息したりしています。また、鳥が餌
となる昆虫を食べたりしています。



せ(瀬)

川の中でも浅くて流れが速いところ。魚
たちがエサをとったり産卵する場所です。



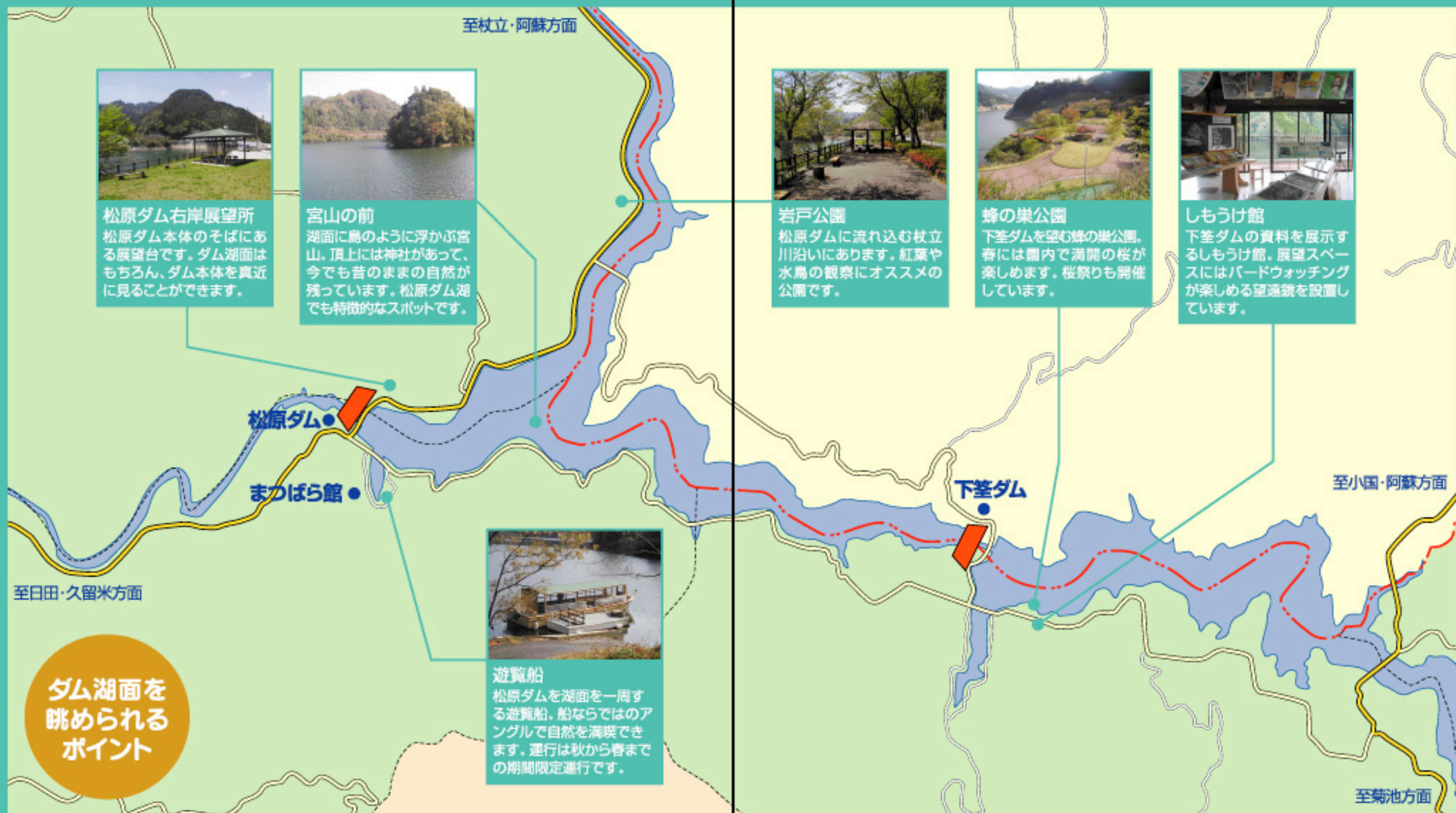
水辺や岸边

水際にはヨシなどの水中に根を張る植
物が生えています。また多くの魚や水生
昆虫のすみかや、産卵場となっています。



松原・下笠ダムの自然

松原・下笠ダムの周りには自然がいっぱい！
観察してみよう！！



松原ダム右岸展望所
松原ダム本体のそばにある展望台です。ダム湖面はもちろん、ダム本体を真近に見ることができます。



宮山の前
湖面に島のように浮かぶ宮山。頂上には神社があって、今でも昔のままの自然が残っています。松原ダム湖でも特徴的なスポットです。



岩戸公園
松原ダムに流れ込む杖立川沿いにあります。紅葉や水鳥の観察にオススメの公園です。



蜂の巣公園
下笠ダムを望む蜂の巣公園。春には園内で満開の桜が楽しめます。桜祭りも開催しています。



しもうけ館
下笠ダムの資料を展示するしもうけ館。展望スペースにはバードウォッチングが楽しめる望遠鏡を設置しています。



遊覧船
松原ダムを湖面を一周する遊覧船。船ならではのアングルで自然を満喫できます。運行は秋から春までの期間限定運行です。

ダム湖面を眺められるポイント

自然観察に出かけよう！

持って行く 道具

手帳やノート ———— 見つけた生き物や植物の
ようすをメモにとるため
えんぴつやペン ———— メモをかくため

あるとべんりな道具

- 野鳥の観察なら ———— 双眼鏡・鳥図鑑
- 水辺の観察なら ———— あみ・とった魚などをいれる容器
むしめがねや水中めがね
水温計・タオル・魚図鑑
- 昆虫や植物の観察なら ———— あみ・虫かご・軍手
ルーペや虫めがね
昆虫図鑑や植物図鑑

服 装

- 緑色や茶色など目立たない色の服
- 長靴や運動靴など歩きやすいクツ
- ぼうし・ビニール袋
- 飲み物
- カッパなどの雨具
- 地図

自然観察のポイント

生き物を観察するときには、
その生き物がどのくらいの大きさで、
どのような色や形をしているか、
またどんなふう動いているか見てみよう。
植物の場合は実際にさわってみて、
かたいのか、やわらかいのか、
などを確認するのも良いでしょう。
見て、さわってわかったことはノートに
メモしておこう。

さあ自然観察に
出発！



自然観察は大人の人と一緒に
行きましょう。

**ぜったいに一人では
行かないこと!!**

保護者の
みなさまへ

子供たちが楽しく自然観察ができるよう
に観察に行く際には現地の安全に十分に
注意してください。



ギンブナ(コイ科)



約25cm



水の流れがゆるやかなところにいます。



川底に住む小さい生き物(底生動物)や藻など食べています。



春から夏のはじめにかけて産卵しています。一般的にフナといえばギンブナのことをさします。



オイカワ(コイ科)



約15cm
「ハヤ」「ハエ」などと呼ばれることもあります。



水の流れの速い瀬を好んで住むけれど、ダムにもいます。



川の中の小さい生き物や藻などを食べています。



5~8月にかけて産卵しています。産卵期にはオスは写真のように体の色を変えてメスを呼び寄せます



カワムツ(コイ科)



約15cm
オイカワと非常に似ていますが、オイカワに比べてウロコがやや小さい。



流れのゆるやかな淵やよどみ、岩の間や柳の下に隠れています。



川底に住む小さい生き物(底生動物)や藻など食べています。



春のおわりから夏(5~8月)にかけて産卵しています。



ウグイ(コイ科)



約30cm
最大で約50cmまで大きくなることもあります。



川の上流から中流の淵に住んでいます。群れになって泳いでいることが多いので見つけやすい。



川の中の小さい生き物や藻などを食べています。



春のはじめ(2~3月)に産卵しています。少し汚れた川でも生きている強い魚なんだよ。



ブルーギル(サンフィッシュ科)



約25cm
エラの部分が青いことからブルーギル=青いエラと呼ばれているんだ。



流れのゆるやかなところや流れがほとんどない湖や池にいます。



エビや水草、ほかの魚の卵などなんでも食べる雑食性です。



もともとは日本にいなかった魚。ほかの魚の卵などを食べてしまうので、問題になっています。



オオクチバス(サンフィッシュ科)



約50cm
約1mまで大きくなることもあります。ブラックバスとも呼ばれます



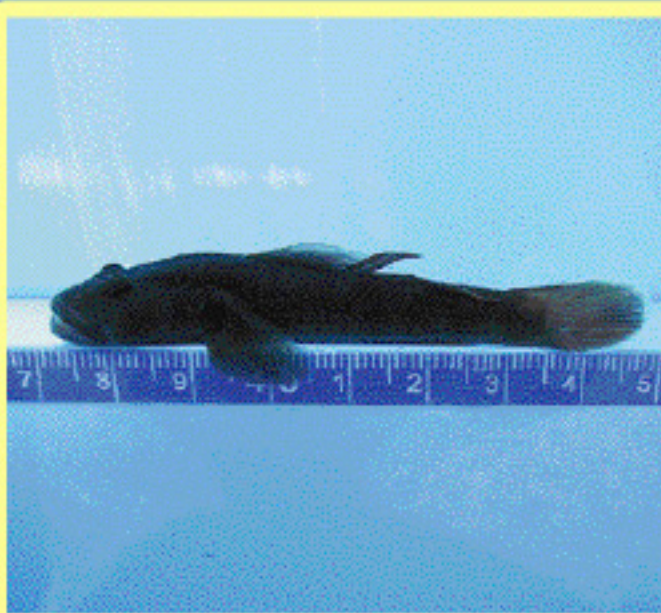
流れがゆるやかな場所や湖や池にいます。



小魚やエビ、カエルなどをなんでも食べる肉食性です。



アメリカ生まれで、日本にはもともといなかった魚です。ほかの小魚をかなり食べてしまうので問題になっています。



オオヨシノボリ (ハゼ科)

- 約10cm
ドンコなどと呼ばれることもあります。きゅうばんのようなお腹が特徴です。
- 川の流れの速いところにいます。海で育ち川へと戻ってくる回遊魚でもあります。
- 川の中の小さい生き物や藻などを食べています。
- 川にすむヨシノボリの仲間の中では一番大きく育つのでオオヨシノボリと言います。



ヌマチチブ (ハゼ科)

- 約15cm
- 流れのゆるやかなところにいるよ。岩や倒木、くいなどかたいものがある場所が好きなんだ。
- 川の中の小さい生き物や藻などを食べています。
- 春から夏にかけて卵を産み、オスは卵がふ化するまで卵を守る習性があります。



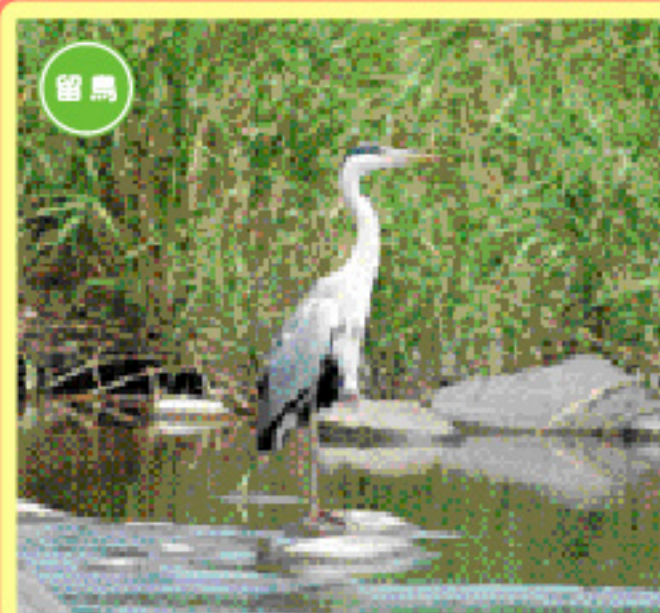
スジエビ (テナガエビ科)

- 約5cm
メスのほうが大きく、カワエビなどと呼ばれることもあります。
- 流れのゆるやかな場所にいるよ。
- 川の中の植物や昆虫、貝などを食べています。
- 生きているときはカラダが透明。オナカの部分に7つの黒いスジ模様があります。



カワウ (ウ科)

- 約80cm
カラスよりも大きい。ウと呼ばれることもあります。
- 全身が黒くて、くちばしが黄色。鳴き声は「グワー」と聞こえます。繁殖期以外はあまり鳴きません。
- 水の中にもぐって、コイやフナなどの魚をとって食べます。
- 水辺にコロニーと呼ばれる集団の住み家を作ります。



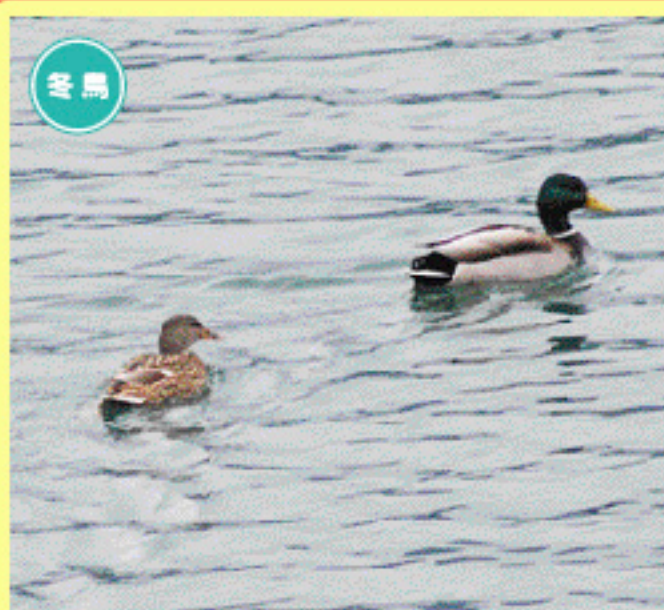
アオザキ (サギ科)

- 約90cmぐらい。サギの仲間の中ではいちばん大きい。
- 首のところが灰色で、背中は青みがかった灰色。くちばしが黄色くて、「グアー、クワツ」といった鳴き声。
- 水辺で近づいてくる魚をとったり、昆虫やカエルなどをとって食べます。
- 4~5月に水辺近くの雑木林や竹やぶにお皿型の巣を作って卵を産みます。



オンドリ (カモ科)

- 約40cm~50cm
カラスより小さい。
- オスはオレンジ色が特徴的で、イチヨウの葉のような形の羽をもつ。メスはオスに比べて目立たない色。
- ドングリなど草木の実が好きだけど、水中にすむ昆虫、魚などを食べます。
- 昼間はすぐに隠れられる木陰の近くの水面にいて、夜は水辺に近い雑木林などの木の枝の上にあります。



留鳥

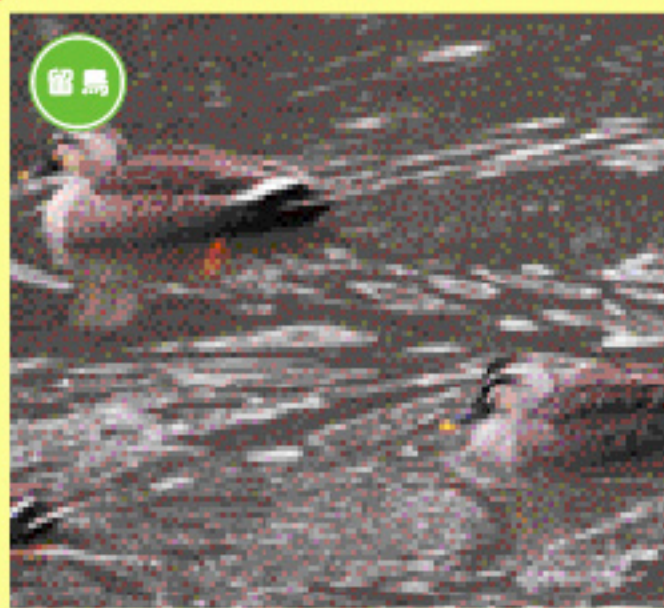
マガモ (カモ科)

10 約50cm~60cm
 カラスと同じぐらいの大きさ。

アタマの部分が緑色でクチバシは黄色。鳴き声は「グエッグエツ、グエー」などと聞こえます。

地上を歩きながら草の実を食べたり、泳ぎながら水草をとって食べたりしています。

冬になると日本より寒いところから飛んでくる渡り鳥です。昼間は水の上で休んでいます。



留鳥

カルガモ (カモ科)

10 約50cm~60cm
 カラスと同じぐらいの大きさ。

くちばしは黒く先端が黄色い、カラダは茶色で、目の周りに黒い線があります。「グワッーグワッー」と鳴きます。

水中や水際の植物を食べたりします。ほかにタニシなども好んで食べます。

春から夏にはオスとメスのつがいが、家族で住んでいるんだよ。



留鳥

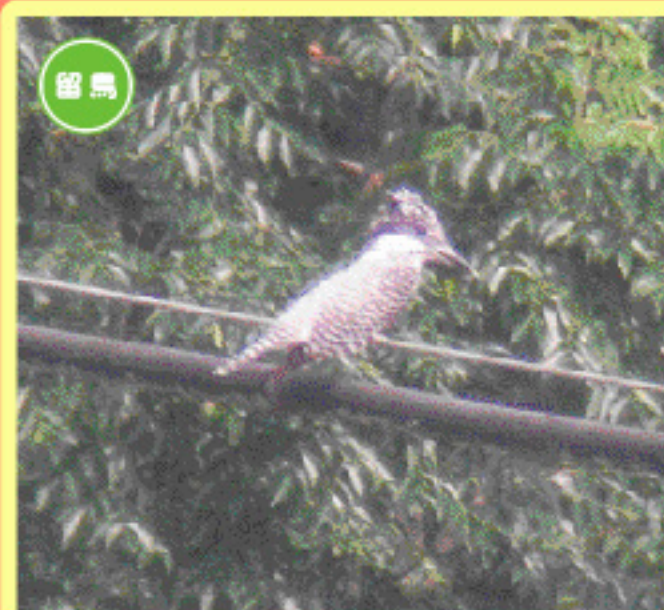
ミサゴ (タカ科)

10 約50cm~60cm
 カラスと同じぐらい。トビに似ていますが白いお腹で見分けます。

おなかの部分が白っぽく、背中茶色。「ビョッビョッビョッ」いったヒヨコのような鳴き声です。

空から水中にダイビングして、コイやフナ、ブラックバスなど食べて食べます。

翼を広げると大人の身長と同じぐらい(155~175cm)の大きさになるよ。一羽で行動することが多い鳥です。



留鳥

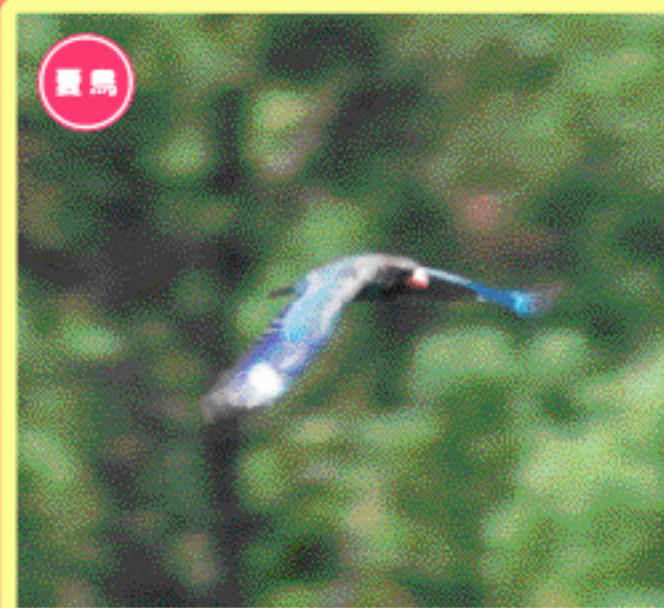
ヤマセミ (カワセミ科)

10 約40cm
 ハトと同じぐらいの大きさ。

白と黒の斑点模様で、アタマのかんむりのような羽(冠羽)が特徴。鳴き声は「キャラッキャラッ」と聞こえる。

水辺の岩や木の枝から水中にダイビングして、ウグイなど魚をとって食べます。

頭を左右に振りながら、エサの魚を木や岩に打ち付ける姿を見ることができます。



夏鳥

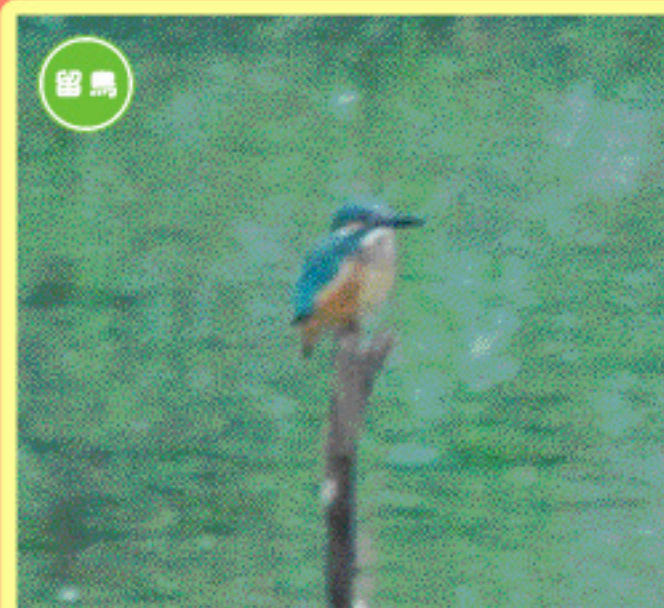
ブッポウソウ (ブッポウソウ科)

10 約30cm
 ハトより小さい。

カラダは青緑色。クチバシが赤く、つばさの白い部分が目立つ。「ゲッゲッゲッ」と鳴く。

木の枝など見晴らしの良いところにとまり、辺りを見張りながら飛んでいる昆虫を捕まえます。

高い木の穴や建物の隙間に巣をつかって住みます。他の鳥がつくった巣を利用することもあります。



留鳥

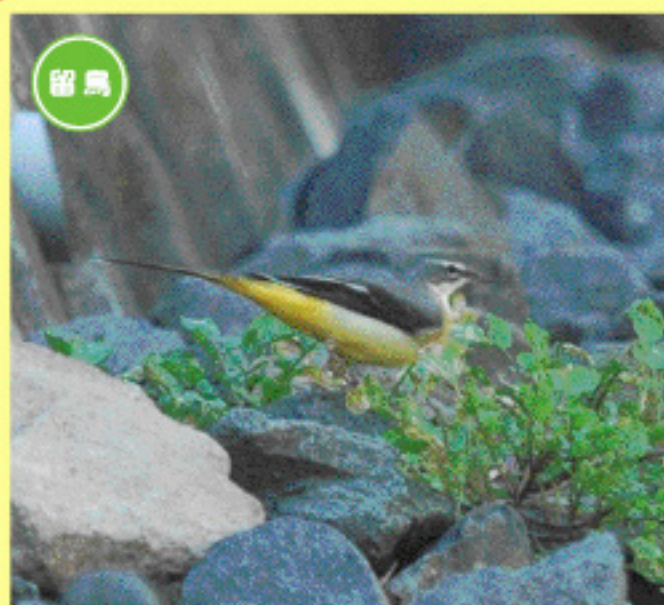
カワセミ (カワセミ科)

10 約17cm
 スズメよりも大きい。コーセミと呼ばれることもあります。

頭から背中はコバルトブルーでお腹が茶色っぽい。くちばしが長い。「ツイーツイー・チーチー」といった鳴き声。

水中にもぐってウグイやドジョウなど魚をとって食べます。ダイビングが得意な鳥です。

オスとメスのつがいで行動しているよ。水辺の土手に作った巣穴で子育てをします。



留鳥

キセキレイ (セキレイ科)

10 約20cm
スズメより大きい

長い尾っぽと黄色いオナカが特徴だよ。鳴き声は「チチンチチン」と聞こえるよ。

水辺で、昆虫やミミズ、貝などをとって食べます。

いつも尾っぽを上下にふりながら歩くかわいらしい鳥です。



留鳥

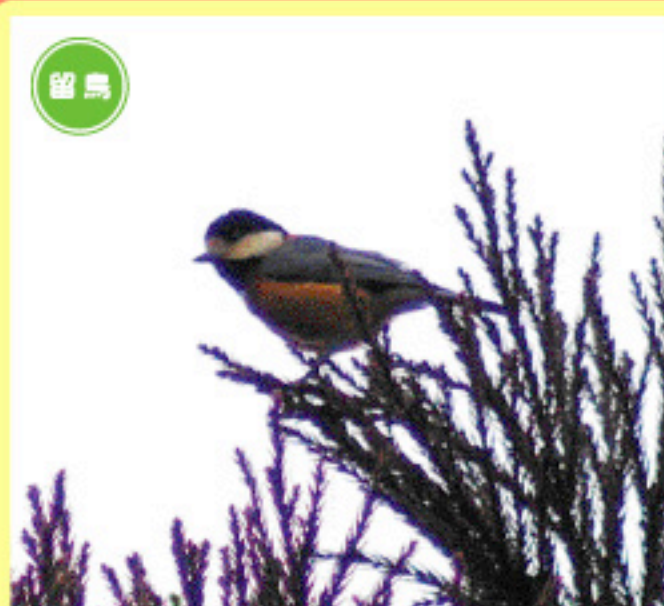
ウグイス (ウグイス科)

10 約15cm
スズメと同じぐらいの大きさ。

カラダはやや茶色っぽく尾っぽが長い。「ホーホケキョウ」という鳴き声がある鳥。

昆虫や木の実などを食べます。

ダム周辺の林の中に住んでいますが、けいかい心が強いので、なかなか姿を見ることができない鳥です。



留鳥

ヤマガラ (シジュウカラ科)

10 約15cm
スズメと同じぐらいの大きさ。

背と腹が赤茶色。「ニーニーニー」とか「ピーピーピー」と少し鼻にかかった鳴き声で鳴きます。

枝から枝へ移動しながらガの幼虫や、草木の実などをとって食べます。

木にあいた穴やキツツキが作った古い巣穴で子育てします。山に設置された巣箱もよく利用する鳥です。



オニヤンマ (オニヤンマ科)

10 約8cm
日本最大のトンボ

春夏秋冬 春から夏にかけて見ることができます。特にオスの成虫はなわばりがあって同じところを飛んでいることが多い。

体が大きく、太い胴体ともよのない羽が特徴。クロとキイロの体色からもすぐに見分けられます。

水路や川の近く、水辺の道路など広い範囲で見つけることができます。



トノサマバッタ (バッタ科)

10 約3cm~6cm
オスよりメスのほうが大きい。ミドリ色と茶色の2種類います。

春夏秋冬 7月~11月ぐらいまで見ることができます。

体はがっしりしていて、頭が丸い。前羽にはもようがあって、後ろ羽にはもようがありません。

河原か、まばらに草の生えたところで見ることができます。



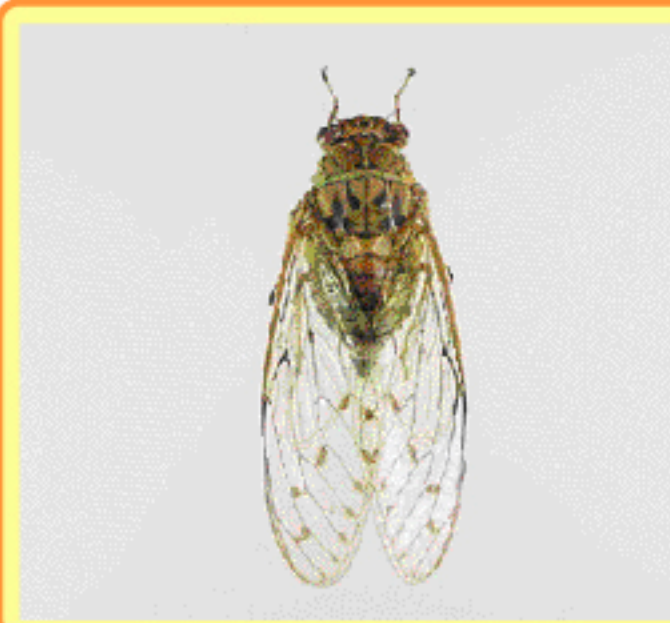
ミンミンゼミ (セミ科)

10 約3.5cm

春夏秋冬 7月から8月ぐらいにたくさん見ることができます。

黒っぽいカラダに緑色の模様が入っているよ。

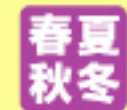
「ミンミンミンミンミン」という鳴き声はみんなも良く知っているよね？公園の街路樹でも鳴き声が聞けます。



ヒグラシ (セミ科)



約3cm



7月から8月ぐらいにたくさん見ることができます。



体は赤茶色。メスに比べてオスはお腹が大きいので、見分けやすい。



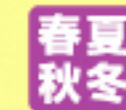
夕方または曇りの時に「キッキッキ」「カナカナカナ」と鳴きます。



ミヤマクワガタ (クワガタムシ科)



約5cm



6月から8月ぐらいに見ることができます。



大型のクワガタ。乾燥と暑さに弱いので、涼しい山の中にいます。ミヤマとは深い山のことを指します。



涼しい山のクヌギやコナラなどで見ることができます。

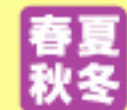


サカハチチョウ (タテハチョウ科)



約4cm

オスに比べてメスの羽は丸みがあります。



春と夏、1年に2回発生します。



羽にある逆八の字形のもようが特徴です。



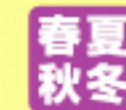
平地よりも山の途中などでよく見ることができます。



カブトムシ (コガネムシ科)



約5cm



7月から8月ぐらいに見ることができます。



オスは立派なツノをもっています。



夏にクヌギの木などで見ることができます。

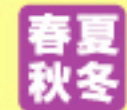


オオムラサキ (タテハチョウ科)



約7cm

日本の国蝶に指定されてます。



1年に1回発生し、6月ぐらいから見ることができます。



オスのはねにはあざやかなムラサキ色の部分があります。



山の雑木林などでみることが出来ます。花のミツではなく、木の樹液をエサにしています。



オオスズメバチ (スズメバチ科)

キケン



約4cm



春から秋にかけて飛んでいる毒をもったキケンなハチです。



黒と黄色の模様が特徴です。



オシリの針には猛毒があって、刺されたら大変なことになるよ。見つけたら追い回したりしないように!!



ブチサンショウウオ(サンショウウオ科)

- 約10cm
- 溪流周辺の谷や斜面。森の中の落ち葉や石の下に住んでいます。
- 昆虫やミミズなどを食べています。
- 水のきれいな川にしか住めない貴重な生き物です。



トノサマガエル(アカガエル科)

- 約7cm
- 川や田んぼなどの水のそばに住んでいます。
- 昆虫やクモなどのほか、小さいカエルを食べるときもあります。
- 春から夏のはじめにかけて一度に3000個ほどの卵を産卵します。



アマガエル(アマガエル科)

- 約5cm
普段は緑色、まわりの環境によって体の色を変えることができます。
- 低い木や草の下にいるよ。雨がふる前に良く鳴きます。
- 小さな昆虫などをエサにしています。
- 春から秋(4月~11月)ぐらいまでたくさん見ることができるので観察しやすいカエルです。



カジカガエル(アオガエル科)

- 約7cm
- 山の中の溪流(川幅の広い溪流)や、そのまわりの河原や林の中に住んでいます。
- 昆虫などをエサにしています。
- 繁殖期にはフィーフィーという鳥のさえずりに似たキレイな鳴き声でメスを呼び寄せます。



ヤマアカガエル(アカガエル科)

- 約8cm
- 山沿いの地域に多く、平地から高地まで広い範囲に住んでいます。
- 小さな昆虫やミミズ、ナメクジなどをエサにしています。
- 春先の暖かい雨が降った夜に卵を産みます。オスは「キャララッキャララッ」と鳴きながらメスをさがします。



トカゲ(トカゲ科)

- 約20cm
- 日当たりの良い草地で見ることができます。
- 昆虫などをエサにしています。
- 子供のころは体に5本のたてじまがあって、しっぽはあざやかな青色。成長すると青色は消えていきます。

ワヤンカニヤウ
シマヘビ



カナヘビ (カナヘビ科)



約18cm~25cm



草地ややぶの中に住んでいます。



クモやハエなど昆虫をエサにしています。



もっとも良く見ることができるトカゲの仲間。日当たりの良いところで日光浴している時もあります。



シマヘビ (ヘビ科)



約80cm~150cm



草むらや山道、林の中などにいます。



カエルやトカゲ、小鳥などをエサにしています。



動きがすばやく、木に登ることもできます。



マムシ (クサリヘビ科)



約40cm~65cm



山の中や草むら、田んぼなどいろいろなところに住んでいる毒をもったヘビです。



カエルやネズミなど中心に小さな生き物をエサにしています。



猛毒を持っているヘビなので、見つけてもぜったいに近づかないようにしましょう!!



ノウサギ (ウサギ科)



約50cm



山の中や草むらに住んでいます。



草や木の実、芽などをエサにしています。



おなか以外は全身茶褐色で耳の先が黒い。冬には耳の先以外は全身真っ白になります。



カヤネズミ (ネズミ科)



約8cm



田んぼの端っこや川のそばの草地に住んでいるよ。草などでボールのような巣を作っています。



植物のタネや昆虫などをエサにしています。



草むらを注意深く観察すると、ボールのような巣を見つけることができるかも?



タヌキ (イヌ科)



約50cm



山の中から人間の家のそばまで幅広く住んでいます。



ネズミやカエル、鳥などをエサにしています。草や木の实、タネなども食べます。



親子か家族で集団生活しています。夜行性で昼間はほとんど行動しません。

ほ乳類



テン (イタチ科)

10 約45cm

森か林の中にすんでいます。人間の家のそばでもみることができます。

小さな動物や果実をエサにしています。

木の枝から枝へ忍者のように軽快に走り回ります。



イノシシ (イノシシ科)

10 約120cm

森や林、水田や畑など幅広くすんでいます。最近はエサを探して人間の家のそばまで現れます。

土の上や下の植物や小さな生き物を食べます。エサを探すために土を掘り返して探します。

夏の暑い日はよく水浴びや湿った土の上でどろ浴びをしています。

トピックス

動物たちの住み家

自然に住む動物たちは木や土手に穴を開けたり、草を集めて家を作ったりして住んでいます。

草地の中にあるカヤネズミの巣は葉っぱを使って上手に丸くあみあげます。



スギ (スギ科)

10 高さ約50m

常緑高木と呼ばれる木で、針葉樹の一種です。

木の幹はまっすぐで、葉っぱは針のような形をしています。

日本特産の木で、各地で多く植林されています。成長した木は家の柱など材木として多く使われています。



クヌギ (ブナ科)

10 高さ約15m

落葉高木と呼ばれる木で、落葉広葉樹の一種です。

毎年、秋になるとドングリの実がなります。

クヌギの樹液はカブトムシやクワガタなどの大好物です。シイタケの原木栽培にも利用されます。



アカマツ (マツ科)

10 高さ約20m

常緑高木と呼ばれる木で、針葉樹の一種です。

葉っぱは針のような形をしています。秋には木の周りにたくさんのマツボックリが落ちています。

樹皮が赤いのでアカマツと呼ばれています。



コナラ(ブナ科)



高さ約20m



落葉高木と呼ばれる木で、落葉樹の一種です。



秋には黄色から赤色に紅葉します。また楕円形のドングリが実をつけます。



コナラはシイタケなどキノコを育てる原木にも使われています。



クズ(マメ科)



—



マメ科の植物で、山などで長いツルを伸ばして生えています。



秋に花が咲きます。花の形はチョウのような形をしていて、甘い香りがします。



クズの根からはデンプンがとれます。昔から日本では食用にされていました。



サカキ(ツバキ科)



高さ約10m



常緑高木と呼ばれる木で、広葉樹の一種です。



秋には丸くて黒っぽい実をつけます。



昔からサカキの枝は神社のおはらいなどに使われています。



ススキ(イネ科)



高さ約2m



細長いイネのような形をしています。平地や山の日当たりの良い場所でたくさん見ることができます。



秋になると穂をつけます。



ススキは昔、家の屋根の材料として使われていたこともありました。



オオブタクサ(キク科)



高さ約2m



北アメリカ原産で、もともとは日本になかった植物です。



葉っぱには3~5つの切れ込みがあります。



北アメリカ原産で戦後になって日本全域に広がっていきました。



オオオナモミ(キク科)



高さ約2m



北アメリカ原産で、もともとは日本になかった植物です。



ラグビーボールのような実にはトゲがたくさんついていて、洋服なんかにひっつくよ。



河川敷や土手にたくさん生えています。



ツルヨシ (イネ科)



高さ約3m



地面をはうように茎が生えています。



8月～10月ごろ花が咲きます。



水辺の砂利のところにたくさん生えています。



モウソウチク (イネ科)



高さ約20m



日本のタケの中で最大のタケです。



葉の大きさは4～8cmぐらいで、大きさの割には葉は小さい。春に新しい葉と生え変わります。



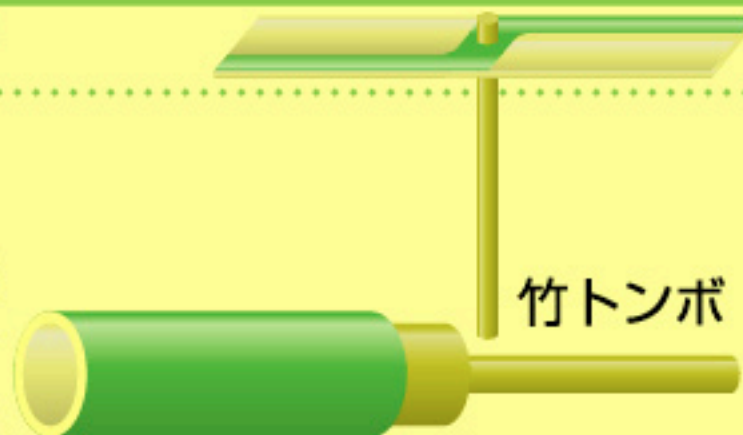
モウソウチクのタケノコは食用として人気があります。

トピックス

自然の植物を使った遊び

竹や木を使っておもちゃを作ってみよう。

竹鉄砲は竹の節のない部分を使ってカンタンにできます。杉の実など木の実をタマに利用します。



竹鉄砲

竹トンボ

トピックス

絶めつが心配される生き物たち

動物や植物が生息する数が少なくなって、最終的にいなくなってしまうことを「絶めつ」といいます。今、日本だけでなく世界中でたくさんの生き物たちの絶めつが心配されています。

人が食べるためにたくさんつかまえたり、生き物たちの住み家を壊したりすることで急速に数が少なくなったり、そこにいない生き物(外来種といいます)を他の場所からもってくることで、強い生き物が弱い生き物を食べたりして、生き物のバランス(生態系といいます)がくずれることで、絶めつの危険にさらされています。そんな絶めつが心配される生き物は国や都道府県によってレッドデータブックにまとめられて保護を呼びかけています。めずらしい生き物はもちろん、全ての動物や植物を大切にし、自然を守ることで絶めつする生き物を救うことができます。

生き物を大切に
することが
大事なんだね



21Pで紹介しているオオムラサキも絶めつが心配されるチョウの一種です。



外来魚や外来種

オオクチバスやオオブタクサなどはもともと日本にはい



ない魚や植物でした。食用にするために外国から輸入されたオオクチバスは、川や湖にもともと住んでいた魚たちを食べてしまうために生態系に大きな影響を与えているといわれています。松原ダム・下釜ダムの周辺でも問題になっています。

観察結果をまとめてみよう

楽しい自然観察ができたかな？

いつ・どこで・なにを見たか観察した内容を記録するフィールドノートをつくってみると、自然観察がもっと楽しくなるよ！

フィールドノートには観察した動物や植物の絵を描いてどんな色やかたちをしていたかを書いておくともっと楽しくなるよ。



メモ

写真提供:筑後川河川事務所・(株)建設環境研究所

メモ

自然観察ハンドブック 34